

小学校適正配置協議会だより 第2号

発行 令和元年8月28日
倉吉市教育委員会学校教育課学校統合準備室

本年度第2回小学校適正配置協議会が開催されました。各地区の委員が6つのグループに分かれて、「適正配置についての意見」「次回の協議方法及び内容」について意見交換が行われました。

◇日時 令和元年7月30日(火)
午後7時～午後8時30分

◇場所 上灘公民館

◇参加者 委員37名、事務局7名

◇内容

1 開会

○教育長あいさつ

- ・この適正配置について、動き出したことに対し嬉しく思っている。
- ・今日の会は、1回目になかなか意見が言い出せなかったということなどの要望から、グループ分けをさせていただいたので、自分はこう思っているとか、いろいろな考えを是非出していただきたい。

2 説明

- ・第1回適正配置協議会で出された意見について説明。

3 各グループ協議の主な意見

【1グループ】

- 先ほど開会でのやりとりで、いつまでこの議論をするのかという問いに、適正配置の修正案が出るまでという回答だったが、意見が決まっている地区からすると、これから何回も協議するものかどうかと思う。
- 何年前前から度々提案してきたが、聞いてもらえず馬耳東風という態度だったので、不信感がありその疲

弊した気持ちがまだ癒やされていない。何ら手を尽くさないまま合併、統廃合となると悔いが残るので、何か頑張って納得するまでやっていきたい。

- もっとドラスティックに変わるような議論になるとか、少なくとも子どもを持つ保護者が心配ないような環境をつくるのが我々の任務だと思う。
- 議論が出来るようであれば、小中一貫校も含め小規模特認校、或いは校区的見直しなど、そういうことがテーブルに乗るようであればしたい。
- 意見をまとめるというのは、みんながまとめる努力をしない限りはまとまらない。合意をしていくというまとめ方をしないと、意見はまとまらない。それには寄せ合うしかない。意見の違いというのは、寄せ合うしかないと思う。

【2グループ】

- 小学校を統合していく、適正配置にしていくというのは、一つには子どものことを考えるというのが一つの大きなポイントである。もう一つの大きな問題点は、今までの地域の輝きを持っている小学生がいなくなった後の地域をどう維持していくか、その心配がある。願わくば、地域づくり支援課も参画していただいて、その後の地域もこういう形で考えましようということがないといけない。
- 問題は地域の核がなくなるとどうしたらいいかといったら方法がない。いずれ何年後には統合しないといけないと理解はしているが、やはり地域のことも考えてもらわないと難しい。
- 今は子どもも減るし、人口も減るし、小さいところは大きいところにひっつきなさいというのは時代遅れなのではないか。人口が減り、子どもが減るときには、それにあった小学校教育なり中学校教育を考えていかなくてはならないのではないか。
- 小さい学年は、やはり最低でも二桁はいないとしん

どいのではないか。社会教育だろうが学校教育だろうが、ろくむしやキックボールなどの遊びをやりたいと子どもが言ったときにできない、選択肢を大人が与えられないというのは、厳しい言葉で言えば大人のエゴかなとも思う。そういう場面で子どもたちが選べる選択肢を示すのが大人の義務なのだと思う。

- 現在の学校の児童数で本当にいいのかというのは感じる。そういう意味でいうと子どもたちのことを考えるといい話なのだろうけど、地域と切っても切り離せないのも、そのところが難しい話となっている。

【3グループ】

- 小学校の現状を見ていく必要があると思う。それに変わるものの提案として、小規模校・大規模校をそれぞれ卒業されて、今、大学生とか社会に出られた人の意見なり話を聞いてみるのが代替案として出来ないか。または教職についている方の話とか。
- 当然、小規模校のメリット・デメリットを考えながら、また地域との繋がりを考えるとまだ、今のままでいいのではないかという地区の意見である。
- 統合される側の方の立場であるが、学校は地域の活動のために必要だということはおかしい。子どもたちの教育を適正化するための会合なので、そこが一番にすべき問題である。
- 現時点での学校統合は反対で、やはり小学校に一定人数がいる限りその子どもたちを中心にして学校が活性化していかないといけない。学校が元気であればその波及効果で地域の方にもいい影響が行くわけだから、まずそこに力をいれなければならないと思う。
- 修正案が出るまでだと回答されたが、また2年、3年とかけていいのか。早くても今年度末とか来年度末とか、そのような区切りをつけてもらった方がいい。

【4グループ】

- 基本的には賛成30%、反対30%、あとのわからないという人が40%ということで、一番のポイントはわからないという人にわかるようにするために、どうするべきかというのが、私の考えである。そしてわかるようにするためには、参加者を増やさないといけない。保護者は年配の人や、大きな声を出す人がいる中では、なかなか声が出せない。ただ、保護者の中でも、賛成・反対は分かれるがそれはそれでいいと思う。
- 小学校しか文化の拠点が無いので、小学校を中心にして隣の公民館とも一緒に活動して、地域の行事などやっていきたいし、そうしてきたから、小学校自体が全部取られてしまうというのは、それはどうかという意見がある。
- 今は、全体でいろいろな意見を出して一から考えていこうとなったが、結局のところは、再編は嫌だという意見はかわらないわけだから、小規模なら小規模校でそのままいけばいいと思う。いけばいいという考えにたって、ではどのような問題が5年後、10年後に出てくるのかということ、きちんと確認しましょう。
- この場で出た意見をフィードバックして毎回できるわけではないが、定期的に各地区の出た意見を伝えていこうと思っている。そうすることで、何年先にどうしますかという時にスムーズにいけると思う。
- 希望だが、同じ地域でも考え方が違うので、常にメンバーを替えるとか、例えば学校の跡地をどうするか、子どもたちの人間形成についてや通学はスクールバスでいいのかなど、いろいろあると思うが1つ1つスポットを当てて議論する方法だと深まる。そして、ある程度の各論が煮詰まれば、少しグループを大きくするなど。
- 気になるのは子どもたちの教育力、人間力は総合してだろうが、結局、将来の子どもたちの責任を今の私たちが出している意見で決めてしまっているのか、ということがあって、そのあたりについて一度専門家の人の話も聞いてみたい。

【5グループ】

- 反対、反対と言われるが、保護者からしてみれば、地域にとって学校は大事だということは理解できるが、実際に学校に行っているのは子どもだから、何もかも反対ではなく少し自分なりに考え直したという意見があった。頭から反対、反対ばかりではないなという考え方になっている。
- 自分はクラス替えが重要だと思う。自分が小学校の時は1学級だったので、その中で友達を作るしかなく、ただ上手くいかなかった場合はどこにも行けない。複数の学級があった方がいいと思う。小学校で5、6人の学級の出身の子が、中学校でいろいろな人と話をして共有していくうちに多様な価値観などを学べたことから、小学校の時は寂しかったという意見をもらった。
- 統廃合ではなく、逆に少ない人数の学校に多い人数の学校がきたらどうか。多い学校にばかり統合していると、地方創生の政府の方針に真逆のことをしているのではないかと。逆に多いところが少ない方に来ればいい。教室が少なかったら2つ作ればいい。確かに子どものことを考えると統廃合しないといけなかもしれないが、我々地域にいる者にとっては、小学校がなくなることにどうしても納得できない。
- 学校をなくすと必ず過疎化する。過疎化が見えているのに踏み切るというのは、財務省主導の統廃合を、合理化のため市が考えているとしか思えない。今ある地区の統廃合は全てやってはいけないと思う。上手く地区を調整、区間を調整してもう一度見直すことが大切ではないかと思う。
- こちらに帰ってきた感想として、少人数で充実して先生に教えてもらっているなど感じた。少人数が絶対いけないというデメリットもあるが、メリットも非常に多いと思う。学校がなくなってしまうと、地域が廃れてきてしまうのが実情ではないかと思う。それほど早急にやらなくてもいい問題ではないかと思う。

【6グループ】

- 東京などで行われている校区をなくす、という取組はどうか。うちの学校はこういう教育をしています、と学校説明会等でプレゼンをする。校区をとっばらってしまうと、どこにでも聞きに行ける。こういうことをすると、先生のモチベーションも上がると思うし、親御さんも子どもたちもいろんな学校の状態を聞くことができる。
- 子どもが良い環境で教育出来るのであれば、簡単に地域から学校がなくなってもしょうがない、という感じで適正配置を進めてはほしくない。
- 子どものためと地域のための両方のことを思うのであれば、もっと交流学习を増やしていけたら良い。子どもたちも刺激をいっぱいもらえる。人数が少なくても、交流学习があるなら統合しなくても良いのでは、というふうになるのでは。
- 保護者の立場での理想というか思いと、地域のことを考えた時と、自分の中にも2つあって板挟み状態である。親だけの立場で言うと、やはり子どもがいろんなたくさんの選べる機会を得ながら、自分で取捨選択しながら成長出来ると、それが一番嬉しいことかと思う。地域が小さいが故に、すごくあたたかいし、地域の方からたくさんのことをしていただいている。延べ人数で言うと、子どもの数の何倍もの地域の方がいろんなことをサポートして下さっている。
- 結局皆が地元を好き。それはすごくいいこと。地域に帰ってきてほしい、という思いもあると思うが、広い目で倉吉市に戻ってきてほしいという風にならないのかな、と思う。みんな、「ここの小学校が」となりがちなので、子どもたちが大きくなって倉吉市に住みたいな、という倉吉市になってもらえれば。
- 大きい規模で育った小学生と、小さい規模で育った子どもに、将来そんなに差がある、差が生まれるとは思っていないので。そういう環境で育ったのも個性の一つではないかと。

